

歴史都市京都における密集市街地・細街路の防災まちづくり情報誌

Vol.9

平成31年3月

■編集・発行■

京都市都市計画局  
まち再生・創造推進室

# ろじまろ通信



## 防災・減災、災害に備える！

### \* 日頃の備えが大事です \*

平成30年をあらわす漢字は「災」でした。6月の大阪府北部地震、7月の西日本を中心とした豪雨、9月の台風21号と北海道胆振東部地震など、多くの被害が出る自然災害が発生した1年。京都市の密集市街地においても、危険なブロック塀や古い木造家屋が多く残っており、特に地震に対する防災上の課題が再認識されました。

実際に災害が起こってからではなく、少しでも「減災」できるよう、気持ちだけでなく「いえ」も「みち」も「まち」もいざという時に備えておきたいものです。

### \* 学区の取組紹介 \*

平成30年度に路地・まち防災まちづくり計画の認定を受けた正親学区と柏野学区（3頁）、防災まちづくりプロジェクトを実施された朱雀第一学区と紫野学区（4頁）をご紹介します。

## 京都市の密集市街地と防災まちづくり

京都市には、**密集市街地**が70地区あり（図中黄色）、そのうち特に対策の必要性の高い地区を「**優先的に防災まちづくりを進める地区**」（優先地区図中赤色斜線）に選定し、地域と行政の連携のもと、防災まちづくりを進めています。

優先地区以外の密集市街地においても、地域が主体となって防災まちづくりを進めている地区が増えており、平成30年度は、教業学区（中京）、今熊野学区（東山）、嵐山学区（右京）が新たに取組を始められました。

注：上記は平成23年の調査に基づくものであり、建物の建替え等、各地域の状況の変化により、今後変わる可能性があります。

※詳しくは「京都市 密集市街地対策」を検索



## 京都市景観・まちづくりセンターが 専門家を派遣します！

京都市景観・まちづくりセンターは、専門家や学識者、市民団体、ボランティアなど多様な主体との連携により、地域コミュニティや地域経済を活性化させ、京都らしい景観の保全・創造、質の高い住環境の形成など京都の都市特性を伸ばすことを目的として取組を進めています。

その一環として、平成27年度からは、防災まちづくりに取り組む地区に専門家を派遣し、地域の活動を支援しています。

あなたのまちでも、専門家の支援を受けながら防災まちづくりを始めてみませんか。



**派遣区域** 密集市街地70地区内

**派遣対象** ①学区単位で防災まちづくりに取り組む場合  
②路地・町単位で防災まちづくりに取り組む場合

他にも派遣要件がありますので、まずはご相談ください！  
お問合せ 京都市景観・まちづくりセンター TEL:075-354-8701

# 防災まちづくり情報交換会

平成30年9月8日（土）に中京区役所において、防災まちづくり情報交換会を開催しました。防災まちづくりに取り組まれている学区の代表者の皆様にご参加いただき、他都市の取組についての勉強会を行った後、取組を進めるうえでの課題や解決方法などについて意見交換を実施しました。

## 勉強会

「他都市における防災まちづくりの取組について」と題し、京都市の防災まちづくりにも専門家として関わっていただいている松原永季氏（有限会社スタチオ・カタリスト代表取締役）から、神戸市の駒ヶ林地区で実施されたまちづくりの取組を事例に、どのように地域の方の防災意識を高め、合意形成を図ったうえで取組を進めていくのかについてお話しいただきました。

ひとつずつ地道な取組を進めていくことで、より大きな取組につながり、まち全体の改善につながった具体的な事例は、参加者の方々にも関心がある内容で、とても有意義な勉強会となりました。



有限会社スタチオ・カタリスト  
代表取締役 松原永季氏

## 意見交換会

「防災まちづくりへの関心を高めるためにはどのような取組が必要か？」をテーマに意見交換が行われました。

「体制づくり・次の担い手づくり」や「防災に関する取組の情報発信」、「防災意識向上・住民参画」等について、その場に出された課題に対し、各学区の状況に応じた、様々なアドバイスや意見が出され、共通の課題や参考になる取組を共有することができました。

### 【主な御意見】

#### 課題

防災情報の伝達が弱い・・・

#### 課題に対する意見

- ・役割分担を明確にしたり、体制や指揮命令系統をシンプルにしたりすることが重要。
- ・SNS等多様なツールを用意しておく。



#### 課題

具体的な改善をするため、地権者の協力を得るには・・・

#### 課題に対する意見

住民、学区、行政で協力し、理解が得られるまで何度も働きかける必要がある。

#### 課題

世代交代が進まず、取組体制の継続が不安・・・

#### 課題に対する意見

- ・防災知識が豊富な方で、退職された方やPTAの役員に次の担い手になってもらうのがいいのでは。
- ・経験豊富な役員はまちのことをよく知っている。若い人はそのサポート役になってもらっては。

#### 課題

地域活動への関心が低下している・・・

#### 課題に対する意見

- ・まちあるきは関心を持ってもらう上で、効果的。
- ・いろんな世代が集まるイベントを実施するなど、まずは参加してもらうことが重要。とりかかりやすいものから始めてもいいのでは。

## 認定式

3年間の取組を経て防災まちづくり計画を策定された、**正親**

学区と柏野学区の皆さんに「路地・まち防災まちづくり計画」の認定証を授与しました。

認定された各学区の代表者の方からは、これまで積み上げてこられた学区独自の取組やその成果について発表していただきました。



上京区  
正親学区防災まちづくり委員会  
尾崎富美雄 会長(前列右)  
細野仁志 副会長(前列左)



北区  
柏野学区自治連合福祉協議会  
片桐直哉 副会長(前列)

## せいしん 正親

正親学区防災まちづくり計画

～地域の絆を深め、みんなでつくる安心・安全、住みよきまち 正親～



正親学区は、「聚楽第」跡地の一部であり、一条通や浄福寺通などによって形成された市街地の中に、町家やトンネル路地などが残っている京都らしい町並みや風景を有する学区です。その一方で、行き止まりの路地が多く、古い木造住宅が密集し、災害による建築物の倒壊や、火災の延焼などが発生するおそれがあります。

こうしたことから、正親学区では、災害につよい安心・安全に住み続けられるまちを目指し、住民のみなさんと「防災まちあるき」や「防災まちづくり意見交換会」など様々な機会に、想いを共有しながら、緊急避難扉の設置による2方向避難の確保や、袋路等始端部の整備などの「すぐに取り組む具体的な対策」を着実に進めるとともに、継続的に取組が進められるよう、今後3年間の取組を中心とした防災まちづくり計画が策定されました。

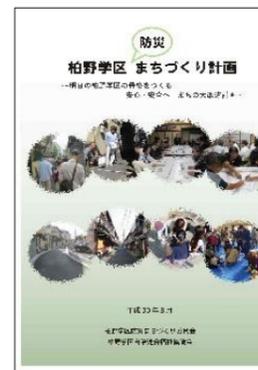


緊急避難扉の設置

## かしの 柏野

柏野学区防災まちづくり計画

～明日の柏野学区の骨格をつくる 安心・安全へ まちの大改造計画～



柏野学区は、京都市の北西部に位置し、西陣織産業が盛んであった地域で、今でも京町家が立ち並ぶ風情ある街並みが残っています。そういったまちの魅力がある一方で、「市の広域的な幹線道路がない」「幅員4m未満の狭い道が多い」「多くの街路が私道」など、道に関する防災上の課題が多くあります。

課題の解決に向けて、防災まちあるきや意見交換会をはじめ、回答率が8割を超えるアンケートなどを通じ、学区一丸となって検討が進められ、防災まちづくり計画が策定されました。また、計画づくりを進める中で、具体的な改善の取組として、地権者や沿道住民の方の御協力により、学区の生活

- ・防災道路として重要な御前通の拡幅整備が実現しました。



整備前



整備後

御前通の拡幅整備

# 防災まちづくりプロジェクト実施報告

## 朱雀第一学区(中京区) <防災機能・意識向上プロジェクト>



朱一学区  
防災まちづくり協議会  
竹岡清榮 会長

朱雀第一学区では、防災まちづくりプロジェクトとして、防災機能と住民の意識を向上させることを目的に、3つの取組が実施されました。

1つ目は、「町内会の集合場所」ステッカーの掲示です。災害時における避難経路や避難の流れなどを日頃から意識してもらうため、町内の各所に設置された消火器ボックスに、それぞれの「町内会の集合場所」を記載したステッカーが貼り付けられました。

2つ目は、かまどベンチと防災井戸の設置です。朱雀第一小学校内に、避難所としての機能を向上させるために設置されました。かまどベンチは、訓練を兼ねて実際に炊き出しが行われ、災害に備えられています。

3つ目は、防災倉庫の設置です。災害時の救助活動がより効率的に行えるようにと、その拠点となる「地域の集合場所」の錦坊城児童公園に設置されました。

このプロジェクトを通して、地域全体の防災に関する意識啓発や地域の防災上重要な場所の機能の向上が図られています。



朱一学区防災まちづくり協議会  
古川岩夫 副会長

### 地域からの声 / 【竹岡会長・古川副会長】

避難所には、調理をするための火と水が必要です。かまどベンチは、元PTA役員などで構成される「おやじの会」など若い方にも参加してもらい、一緒に作りました。防災井戸は以前から必要だと思っていたもので、隣の朱雀第二学区さんが防災まちづくりプロジェクトで防災井戸を作られたので、お話を聞き、参考にしながら実現することができました。

また、町内会の集合場所を周知するために、町内にたくさん設置されている消火器ボックスに「町内会の集合場所」の掲示ステッカーを貼り付けることを考えました。ステッカーの色を決めるのにも防災委員を中心に、みんなで考えました。

防災の取組に、終わりはありません。今後も、地域のみなさんの意見を聞きながら、安全・安心につながる取組をしていきたいと考えています。

## むらさきの 紫野学区(北区) <地域集合場所の表示板設置プロジェクト>

紫野学区では、以前から「地域集合場所」の表示板を設置していましたが、劣化して壊れたり、なくなったりしていたものが全体の1/3ありました。そこで今回の防災まちづくりプロジェクトでは、劣化しにくい丈夫な材料でデザインを一新した表示板が設置されました。

設置にあたっては、この機会を利用し、まず各町内会において「地域集合場所」を見直す必要がないか確認することとし、周辺の建物や路地の安全性、高齢化等の状況等を踏まえたうえで、広さや町内各所からの集まりやすさ、周囲に危険なものがないかなどの点検が行われました。

このプロジェクトを通して、「地域集合場所」がどこにあるか、また「地域集合場所」への避難経路は安全か、再確認を行うことができ、住民の防災に関する意識の更なる向上が図られています。

### 地域からの声 / 【白瀧委員長】

地域集合場所は、災害時に非常に重要な役割を持ちます。紫野学区では、土砂災害のハザードマップにも地域集合場所を載せるなど、周知に力を入れています。表示板を付けたことで、それぞれの町内の地域集合場所の位置が非常にわかりやすくなりました。地域の財産です。

小学校の授業で防災の話をしてもらう機会がありましたが、授業の後で、子供たちが地域集合場所を実際に確認したと聞いています。その際も地域集合場所が載っているハザードマップが役に立ちました。

また、地域集合場所は災害時以外でも日常的に活用されています。防災は生活の一部になることが大切だと思います。今後も、地域の良さを生かし、地域性を大切にしながら防災の取組を進めていきたいと思っています。



紫野学区防災まちづくり委員会  
白瀧雅章 委員長

<お問合せ・ご相談はこちらまで>

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室 (密集市街地・細街路対策担当)  
TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物 →バック  
第305166号 ナンバー  
平成31年3月発行 はこちら



この印刷物が  
不要になれば  
「雑がみ」として  
古紙回収等へ!

